

ろじママ多通信



取組を共有しよう！

より良い取組を進めるために

学区単位で地域と行政の協働による防災まちづくりに取り組む地域が増えてきました。中には、その取組が全国的にも評価され、表彰を受けた学区もあります。

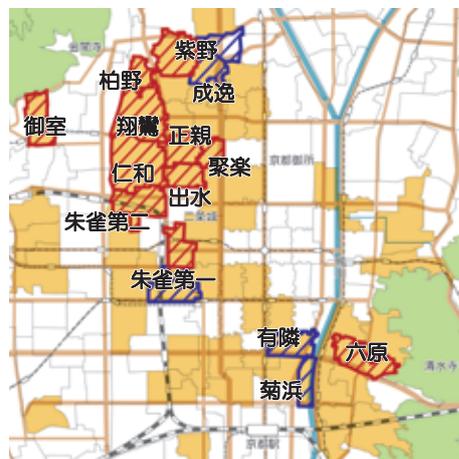
防災まちづくりの取組を進める上で、他の地域での成功体験は大いに参考になります。ご自身の地域を見直すきっかけにもなるのではないのでしょうか。情報を共有し合うことは、取組をより良くしていくための一つの方法です。

京都市からの情報発信

平成29年度は、各地域での取組を共有するための「防災まちづくり情報交換会」や、防災まちづくりについて学んでいただく「防災まちづくり講演会」を開催しました。(→2、3頁)

また、「路地保全・再生デザインガイドブック」を発行するなど、具体的な改善に向けた情報発信もしています。(→4頁)

これらは京都市のホームページでより詳しい情報を公開しています。ぜひ参考にしてみてください。



京都市の密集市街地と防災まちづくり取組地区

- 密集市街地
- 優先的に防災まちづくりに取り組む地区
- 防災まちづくり取組地区

六原まちづくり委員会の取組が表彰されました！

六原学区では、六原まちづくり委員会が主体となり、「住んでいてよかったまち、これからも住み続けたいまち」を目指して、防災まちづくりの取組をはじめ多様な活動を持続的に展開され、同様の課題を有する他地区のモデルとなっています。

そうした取組が評価され、平成29年6月に「平成29年度まちづくり月間まちづくり功労者国土交通大臣表彰」を受賞、平成30年3月には「第22回防災まちづくり大賞 日本防火・防災協会会長賞」を受賞されました。

六原学区の取組は、防災まちづくり講演会でもお話いただきました。(→4頁)



六原まちづくり委員会のみなさん

防災まちづくり情報交換会

平成 29 年 9 月 9 日 (土) 立命館大学朱雀キャンパス多目的室

認定式 平成 29 年度に「路地・まち防災まちづくり計画」の認定を受けた紫野学区、成逸学区、朱雀第一学区の方々に認定証を授与しました。

合わせて、認定された学区の代表者の方々に、各学区の取組について発表していただきました。その内容を一部抜粋し、右に掲載します。



↑認定学区による取組紹介の様子

認定を受けた学区の皆様を発表

これまで、町ごとのまちあるきや災害図上訓練などに取り組んできました。今年度は、各町内会の防災地図の更新などを進めています。



紫野学区防災まちづくり委員会
委員長 白瀧 雅章さん



成逸まちづくり推進委員会
副委員長 牧本 晴男さん

地蔵盆調査をきっかけに、それまでのまちづくりの取組と融合させながら防災の取組を始めました。町内会単位で取り組んでいます。



紫一学区防災まちづくり協議会
副会長 古川 岩夫さん

小学校と連携し、地域の子どもたちも巻き込みながら取り組んでいます。取組開始から4年経ち、まちの変化なども確認していく予定です。

意見交換会

後半は、6つのグループに分かれ、意見交換をしました。

複数の学区で共通する課題を一緒に考えたり、アドバイスし合ったりしながら、今後の取組をどのように改善していけるか、一緒に考えました。自分たちの学区について見つめなおす良い機会になったという方々がたくさんおられました。

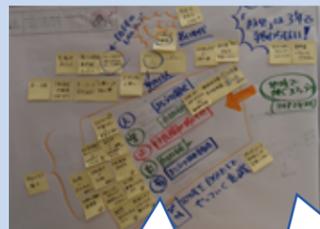


自主防災役員の引き継ぎの仕組みを工夫しています。

時代や居住者の変化に合わせて地域活動も柔軟に。

行政や専門家とうまく連携して計画の実効性を高めよう！

子ども向けの取組は、親を巻き込むきっかけにも。



専門家の方々と京都市職員で、グループごとに出された意見を模造紙にまとめました。

計画策定の過程で、十分な議論が大事です。

若い世代にも気軽に参加してもらえようサポート制度を作ってみよう！

防災まちづくりの取組を共有しました

防災まちづくりの取組について情報共有する場を、平成 29 年度は 2 回設けました。

一つは、防災まちづくりに取り組む学区の皆様にお集まりいただき、「防災まちづくり情報交換会」を開催しました。それぞれの取組を共有し、共通の課題の解決などについて話し合っていました。(左頁)

もう一つは、広く市民の皆様を対象に、防災まちづくりの取組の第一歩となるよう「防災まちづくり講演会」を開催しました。(右頁)

講演会の第一部では、防災・復興研究を専門にされている室崎先生をお迎えし、「減災」という視点で歴史都市京都のまちづくりについてお話いただきました。第二部では、3名のパネリストをお招きし、各地での取組事例のご紹介や意見交換をしていただきました。

それぞれの様子を抜粋してご紹介します。

防災まちづくり講演会

平成 29 年 12 月 17 日 (日) 弥栄会館・ギオンコーナー



第一部 基調講演「歴史都市京都の減災まちづくり」



室崎 益輝 氏
兵庫県立大学大学院
減災復興政策研究科
研究科長・教授

減災とは、できることをコツコツと積み上げて、少しずつ被害を避けていく考え方です。まちとは、街(建物や道)も町(コミュニティ)も含めた全体的なものを指します。つくりとは、一人ひとりの思いを形づくること、地域の特徴を活かすことを表します。京都には、昔から「減災まちづくり」が根付いています。たとえば、火を出さないための約束事をみんなで守ったり、飛び火のリスクを減らす屋根勾配、ご近所に被害を知らせる近隣通報システムなど。そうした昔からの知恵に加え、最新の情報や技術も上手に取り入れていきましょう。ただし、まちの本質や文化を損なわないように。みんなが楽しく過ごせる町並みをつくっていくことも大切です。対策には多様な選択肢がありますので、それらを足し合わせながら、安全なまちをつくっていただくとありがたいです。

パネルディスカッション「地域で防災まちづくりに取り組むということ」

第二部



コーディネーター
スーク創生事務所
代表 大島 祥子さん

まちづくりの取組における新しい人たちとの関わり方や、京都の歴史を活かしたまちづくりについて、3名のパネリストそれぞれにお話をうかがいましょう。



パネリスト
京・まち・ねっと
主宰 石本 幸良さん

東山区六原学区では、まちづくりに興味のある方はウェルカムの姿勢です。実際、転入者の方が町内会長就任を機に、一緒に活動してくれるようになりました。住人視点を大切に、町並みを残し、生き生き暮らせる環境も含めたまちを次世代へ受け継いでいきたいです。



コメンテーター
室崎 益輝さん

上京区成逸学区では、地蔵盆の活動を通じて新しい居住者との交流が生まれ、町内会活動が盛り上がっています。京都ならではの町内の歴史が今も受け継がれているからこそ、町内会を基礎とした防災の取組が継続し、絶えず進化していると思います。



神戸市長田区駒ヶ林地区では、下町に魅力を感じたアーティストの方などがイベントやまちづくり協議会に参加してくれて、まちが面白く新しく変わってきています。京都は積み重ねられた歴史の中に、多くの人に参加の機会を生むチャンネルがありそうです。まずは挨拶から！



聚楽学区自主防災会
会長 松村 泰廣さん

どれも素晴らしい取組で、情報の発信や交流をしていくことも重要ですね。古さに固執しないのが京都の良さ。新しさを組み込むことが、歴史を活かすこととも言えます。

会場にも、地域で防災に取り組む方々がお越しです。

昨年の先斗町での火災を機に、高圧ノズルホース等で火災に備えています。

旧式の消火器を一新しました。近隣通報システムも整備したいです。



パネリスト
六原まちづくり委員会
委員長 菅谷 幸弘さん



パネリスト
スタジオ・カタリスト
代表取締役
松原 永季さん



先斗町まちづくり協議会
副会長 神戸 啓さん



摘録の全文は右のQRコードから京都市のホームページでご覧いただけます。



ふくろうじいの マチづくり マメちしき

Vol. 5 路地を保全・再生するシナリオ

路地は、歴史都市京都の魅力である一方、災害時の避難に支障をきたすおそれがあることや、建替えができないなどの課題もあります。路地の魅力を活かしながらか保全・再生していくには、路地の状況を知り、お住まいのみなさんで将来像を描きながら取り組む必要があります。今回は、典型的な3つのシナリオをご紹介します。

シナリオ1 保全

～現在の路地の町並みを保全する～
建物を改修したり、路地に避難経路を確保したりすることで安全性を高めながら、現在の路地の町並みを守っていきます。



シナリオ2 継承

～親しみのある路地の風情を継承する～
路地を大きく広げずに、建物を建て替えることで路地の安全性を確保しながら、路地ならではの空間を継承していきます。



シナリオ3 再生

～建物を建て替えて安全な通りに再生する～
建物を建て替える際に、路地を広げながら通り全体の安全性を高め、新しい通りに再生します。



それぞれのシナリオで活用できる制度や手法、事例等をまとめた「路地保全・再生デザインガイドブック」を発行しました。京都市のホームページのデジタルブックで閲覧いただけるほか、京都市の窓口でも無料配布しています。



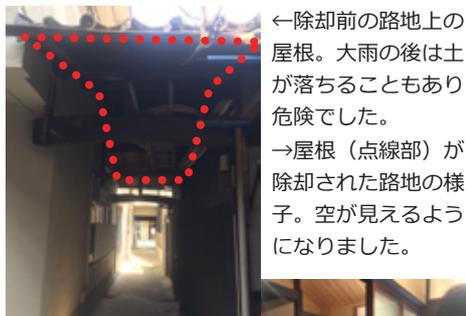
路地自慢

わがマチわが路地

Vol. 4 有隣学区の路地(下京区)

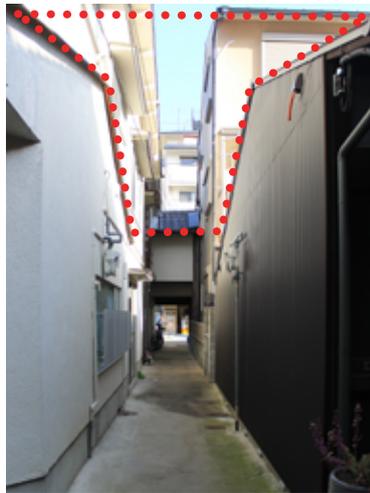
下京区有隣学区のとある路地。路地に面した建物の屋根が路地の上まで延びて掛かり、その下を路地奥にお住まいの方々が通る形になっていました。(下写真点線部) この屋根の老朽化が進み、地震や台風などで崩れるおそれがあったため、建物の改修を機に、路地に掛かる部分の屋根を除却することで、災害時の避難安全性が向上しました。

建物は、築80年以上経つ空き家でしたが、京町家の魅力を引き出すとともに現代の生活に合うよう改修され、工事後すぐに借り手が見つかりました。改修にあたって、地域で空き家対策や防災まちづくりに取り組まれている有隣学区まちづくり委員会が、設計や補助金活用等の面で所有者をサポートしました。



←除却前の路地上の屋根。大雨の後は土が落ちることもあり危険でした。
→屋根(点線部)が除却された路地の様子。空が見えるようになりました。

→改修後の建物の内覧会の様子。温かい雰囲気になりました。



所有者からの声/

“改修前は、路地にかかる屋根が落ちそうと、路地奥の人に怪我をさせないかとでも心配でした。除却したら、安全性の向上はもちろん、路地に風や光が入るようにもなりました。

建物は、古いものの良さを活かして改修し、可愛くなりました。建具も自分たちで洗って再利用しているんですよ!

知り合いが居してくれることになり、生まれ育った家を思い出す懐かしい家だと気に入ってくれています。”



談笑する居住者(左)と所有者(右)のお二人

＜お問合せ・ご相談はこちらまで＞

京都市都市計画局 まち再生・創造推進室 (密集市街地・細街路対策担当)
TEL 075-222-3503 FAX 075-222-3478

■京都市印刷物
第295149号
平成30年3月発行

→バック
ナンバー
はこちら



市民による自治120年



この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ!